

LP-180

DIGITAL PIANO

演奏を楽しむためのエチケット

音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。演奏する時間によって、音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。

また、ヘッドホン使用時、または小さな音量での演奏時に、鍵盤の機構上若干のメカニズム音が聞こえます。あらかじめご了承ください。

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには 図記号の例

	△記号は、注意(危険、警告を含む)]を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘記号は、禁止(してはいけないこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

デジタル・ピアノは、ご家庭の中で身近において、お子さまから専門家の方まで幅広くご愛用いただけます。デジタル・ピアノは大きくて非常に重いものです。安全に使用していただくためにも、室内での設置場所や日常の取り扱いについては、十分に注意してください。また、設置や移動の際は必ず2人で行ってください。小さなお子様がご使用になる場合は、ご家族の方が最初に教えてあげてください。

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性があります。

- ・ACアダプターのプラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- ・ACアダプターのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。
- ・感電やショートの恐れがあります。
- ・本製品はコンセントの近くに設置し、ACアダプターのプラグへ容易に手が届くようにする。
- ・次のような場合には、直ちに電源を切ってACアダプターのプラグをコンセントから抜く。
 - ACアダプターが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき修理が必要なときは、コルグお客様相談窓口へ依頼してください。
- ・本製品を分解したり改造したりしない。
- ・修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。
- ・ACアダプターのコードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、ACアダプターのコードの上に重いものをのせない。コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- ・大音量や不快程度の音量で長時間使用しない。大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- ・本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を入れない。
- ・温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保管をしない。

- ・振動の多い場所で使用や保管をしない。
- ・ホコリの多い場所で使用や保管をしない。
- ・風呂場、シャワー室で使用や保管をしない。
- ・雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管をしない。
- ・本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。
- ・本製品に液体をこぼさない。
- ・濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります。

- ・正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ・ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。本製品をテレビ等の横に設置すると、本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因になることがあります。
- ・外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- ・ACアダプターをコンセントから抜き差しするときは、必ずプラグを持つ。
- ・本製品の移動時は、本体とスタンドを別にし、必ず2人以上で持ち上げる。
- ・長時間使用しないときは、ACアダプターをコンセントから抜く。
- ・付属のACアダプターは他の電気機器で使用しない。付属のACアダプターは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- ・他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- ・スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。故障の原因になります。
- ・外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。
- ・不安定な場所に置かない。本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- ・本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。
- ・本製品の隙間に指などを入れない。お客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。
- ・地震時は本製品に近づかない。
- ・本製品に前後方向から無理な力を加えない。本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。
- ・キー・カバーや譜面立ての開閉時は、指や手を挟まないようにする。

付属のスタンドについて

- ・取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方」に従って確実に設置する。本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。

*すべての製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

保証規定(必ずお読みください)

本保証書は、保証期間中に本製品を保証するもので、付属品類(ヘッドホンなど)は保証の対象になりません。保証期間内に本製品が故障した場合は、保証規定によって無償修理いたします。

1. 本保証書の有効期間はお買い上げ日より1か年です。
2. 次の修理等は保証期間内であっても有料修理となります。
 - ・ 消耗部品(電池、スピーカー、真空管、フェーダーなど)の交換。
 - ・ お取扱方法が不適当のために生じた故障。
 - ・ 天災(火災、浸水等)によって生じた故障。
 - ・ 故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
 - ・ 不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
 - ・ 保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
 - ・ 本保証書の提示がない場合。尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、修理した日より3か月以内に限り無償修理いたします。
3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.
4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。詳しくは、お客様相談窓口までお問い合わせください。
5. 修理、運送費用が製品の価格より高くなることがありますので、あらかじめお客様相談窓口へご相談ください。発送にかかる費用は、お客様の負担とさせていただきます。
6. 修理中の代替品、商品の貸し出し等は、いかなる場合においても一切行っておりません。

本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損害につきましては、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。本保証書は、保証規定により無償修理をお約束するためのもので、これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

アフターサービス

修理および商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

お客様相談窓口 0570-666-569

PHS等一部の電話ではご利用できません。固定電話または携帯電話からおかけください。
受付時間 月曜～金曜 10:00～17:00(祝祭日、窓口休業日を除く)

●サービス・センター：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-18-16 2F

お願い

1. 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
2. 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

コルグ LP-180	保証書
本保証書は、上記の保証規定により無償修理をお約束するものです。	
お買い上げ日	年 月 日
販売店名	

株式会社コルグ

本社：〒206-0812 東京都稲城市矢野口 4015-2
© 2014 KORG INC. www.korg.com

故障とお思いになる前に

故障かなと思ったときは、次の事項を確認してください。それでも症状が改善されないときには、コルグお客様相談窓口へお問い合わせください。

電源が入らない

- ・ACアダプターが、正しく本機とコンセントに接続されていることを確認してください。
- ・電源LEDが、点灯していることを確認してください。

スピーカーから音が出ない

- ・音量ツマミ(VOLUME)をMAX側に回してください。
- ・ヘッドホンのプラグが差し込まれていると、スピーカーから音が出ません。

音が途切れてしまう

- ・本機の音色は、元になる楽器の音をサンプリング(録音)し、分析/加工してつくられています。音色によって1つの鍵盤を押すと、サンプリング・データの1つを鳴らす音色と、2つを鳴らす音色があります。本機では、ほとんどの音色で2つのデータを鳴らします。この場合、ダンパー・ペダルやソステヌート・ペダルを踏んでいるときも含め、同時に発音できる音数は60音となります。ただし、ピアノ2音色は、最大同時発音数は120音となります。

特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい

- ・ピアノ音色では、ピアノ本体の音をできるかぎり忠実に再現しようとしています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音質が異質に感じる場合がありますが、本機の不良ではありません。

ペダルの効果がかからない

- ・ペダル・ユニットのコードが本体側、ペダル・ユニット側が共に正しく接続されていることを確認してください。

接続したMIDI機器が送信したMIDIデータに応答しない

- ・MIDIケーブルがすべて正しく接続されていることを確認してください。
- ・MIDI機器と同じチャンネルで、本機がMIDIデータを送信していることを確認してください。

仕様

鍵盤	NH鍵盤：88鍵(A0～C8)
最大同時発音数	120音/60音(ステレオ)
音色	10音色
接続端子	ヘッドホン×2(出力端子兼用)、MIDI OUT、ペダル・ユニット接続コネクター
アンプ出力	11W×2
スピーカー	(16cm×8cm)×2
電源	DC12V
消費電力	13W
質量	23.3kg(スタンド含む、ペダル・ユニット含まず)
外形寸法(スタンド、突起物含む)	1365(W)×274(D)×781(H)mm 1365(W)×349(D)×914(H)mm (キー・カバーを開けた状態)

付属品 ACアダプター(●●●●)、スタンド、ペダル・ユニット、ペダル・コード、取扱説明書

※仕様および外装は、改良のため予告なく変更することがあります。

スタンドの組み立て



警告

スタンドの組み立ては必ず2人以上で行ってください。

組み立て時の注意

正しく安全に組み立てるためには、以下の項目に注意して作業を行ってください。

- ・ 部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順通りに組み立ててください。
- ・ ピアノの本体をスタンドに固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので、十分に注意してください。

その他の注意

組み立てた後は、以下の項目に注意してください。

- ・ **ネジの緩みについて**
組み立て後、時間が経過すると、各部のネジが緩むことがありますので、ネジが緩んでいないかを定期的に確認することをおすすめします。また、スタンドの揺れが激しいと感じる場合は、ネジが緩んでいる可能性があります。そのときは、ネジを締め直してください。
- ・ **設置場所を移動するとき**
スタンドの組み立て後に移動するときは、ACアダプターとのコードとペダル・コードをスタンドから取り外し、キー・カバーを閉じて、必ず2人以上で水平を保ちながらゆっくり移動して下さい。
- ・ **分解について**
スタンドを分解するときは、組み立て時の逆の順番で行ってください。取り外し後は、ネジなどの部品をなくさないように保管してください。

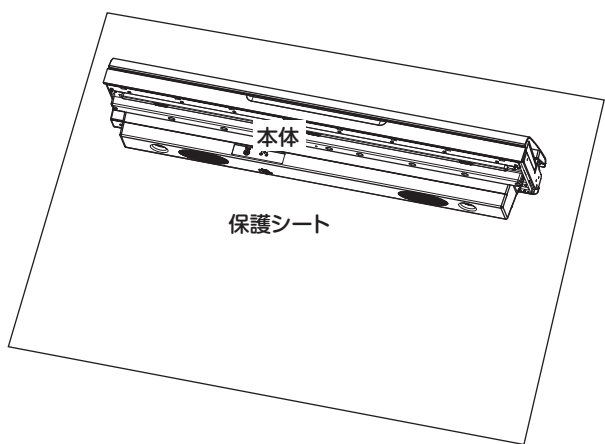
必ず本体を横に寝かせて分解を行ってください。

組み立て方法

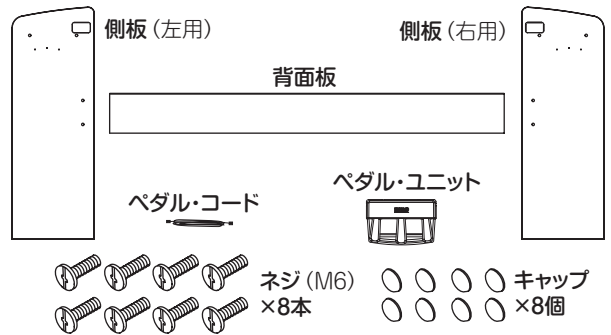
お手持ちのプラスのドライバーを用意してください。

1. 本体を包んでいた保護シートを平らな床に敷き、後面が床側になるように本体をその上に置きます。

組み立てが終わるまで、本体のキー・カバーが開かないよう注意してください。

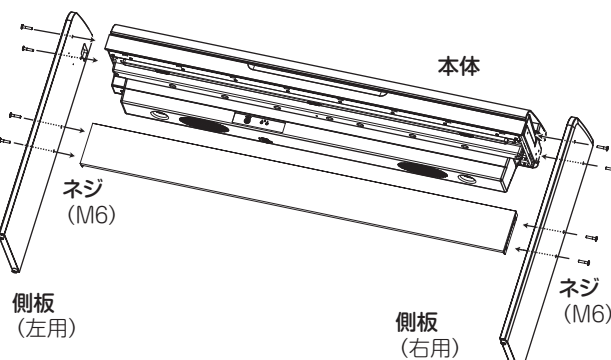


2. 下記の部品がすべてそろっていることを確認してください。



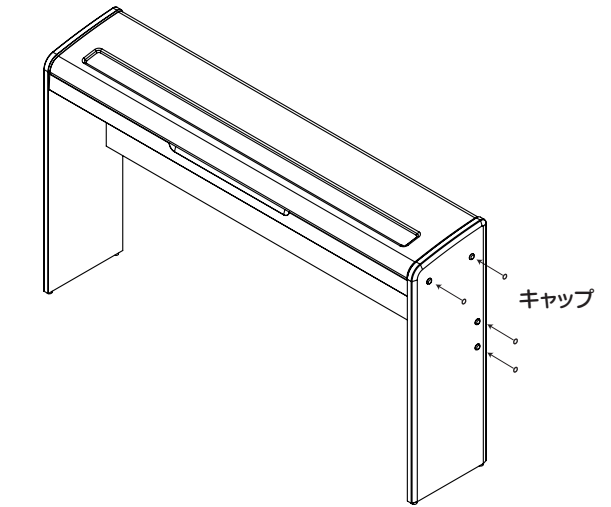
3. 左右の側板に、ネジ(M6)8本で本体と背面板を固定します。最初に右側の側板のネジを仮止め*してから、左側の側板のネジも仮止め*します。

* 仮止めとは、2mm程度隙間が空くようにネジを締めることです。

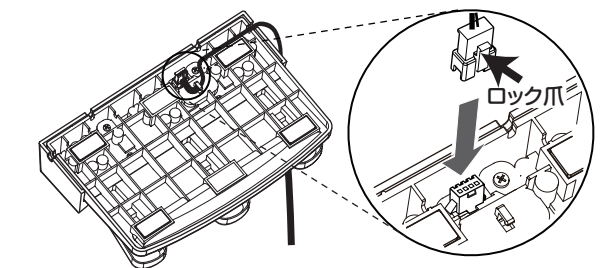


指などを挟まないように注意してください。

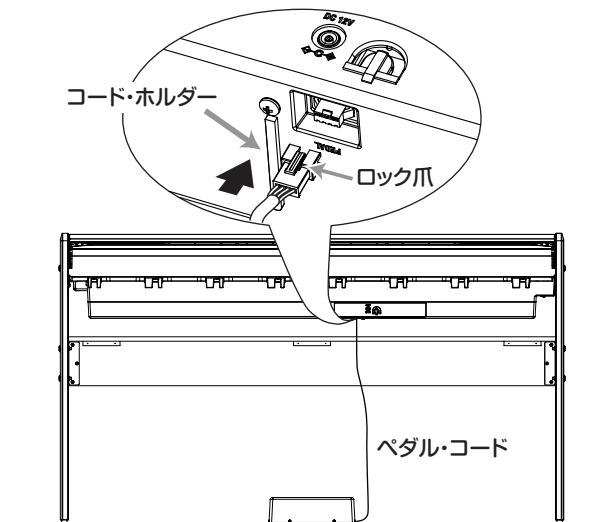
4. 組み立てたスタンドを2人でゆっくりとおこします。
5. この状態で手順3で仮止めしたすべてのネジをしっかりと固定します。
本体を固定する際は、側板との上下、前後の段差を左右均等になるように調整してください。
6. もう一度スタンドに隙間や傾きが無いことを確認し、すべてのネジをしっかりと締まっていることを確認します。
7. 左右の側板のネジ頭に、キャップをかぶせます。



8. ペダル・ユニットの裏にあるコネクタに、向きを間違えないように付属のペダル・コードを接続します。ペダル・コードをペダル・ユニットのフックに引っかけて固定します。ペダル・コードのコネクタの脱着は、ロック爪を押しながら行ってください。



9. 本体の底面にある接続端子に、ペダル・コードを接続します。ペダル・コードを接続するときは、コネクタの向きに注意してください。また、ペダル・コードのコネクタの脱着は、ロック爪を押しながら行ってください。



10. ペダル・コードをコネクタ横のコード・ホルダーで固定します。固定後コネクタに無理な力がかからないようにしてください。
11. ACアダプターのプラグをDC 12V端子と接続し、コードをピアノ本体のコード・フックに引っかけて固定します。詳しくは、5ページの「1. 電源の接続(図1)」を参照してください。
12. 本機を設置してください。このときは、平らで安定した床かどうかを確認し、安全な場所へ置いてください。
本機を設置するときは、ACアダプターのコードやペダル・コードの上にスタンドが乗らないように注意してください。

組み立て後のチェック

- ☐ 部品は余っていませんか？
部品が余ったときは、組み立て手順をよく見て、それらがどこで使われる部品なのかを確認してください。
- ☐ すべてのネジが緩んでいないかを確認してください。

MIDI

MIDI OUT端子の接続方法

MIDI情報を送信します。本機の鍵盤を弾いたときに出力されるMIDI情報で外部MIDI機器の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。本体のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子をMIDIケーブル(別売)で接続します。

MIDIチャンネルの変更

MIDI端子を使って、本機を演奏することによって他のMIDIを備えた楽器を鳴らすときに、接続機器と同じチャンネルに設定する必要があります。PIANO PLAYボタンとSOUNDボタンを同時に押しながら、C4からD[#]5の鍵盤で、本体裏面のMIDI OUT端子から送信するMIDIデータのMIDIチャンネル(1~16)を変更します。

電源を入れたとき(初期設定)のMIDIチャンネルは1です。

プログラム・チェンジ(PC)、コントロール・チェンジ(CC)の送信

接続しているMIDI機器のプログラム番号を本機から切り替えることができます。本機の音色を選ぶ(6ページ「音色をかえて弾いてみましょう」参照)と、下表のようにMIDIプログラム・チェンジャー(PC#)を送信します。この設定は、PIANO PLAYボタンとSOUNDボタンを同時に押しながらG[#]3を押すと送信しない(DIS)に、A3を押すと送信する(ENA)になります。同様に、接続しているMIDI機器にダンパー(CC64)やバンク・セレクト(CC00)のコントロール・チェンジなどを送信します。この設定は、PIANO PLAYボタンとSOUNDボタンを同時に押しながら、A[#]3を押すと送信しない(DIS)に、B3を押すと送信する(ENA)になります。

電源を入れたとき(初期設定)は、どちらも送信する(ENA)です。

プログラム・チェンジ対応表

BANK#	PC#	音色	BANK#	PC#	音色
0	0	ピアノ1	0	7	クラビコード
0	1	ピアノ2	0	11	ビブラフォン
0	4	E.ピアノ1	0	19	P.オルガン
0	5	E.ピアノ2	0	16	E.オルガン
0	6	ハーブシコード	0	48	ストリングス


CC00: 音色のバンク・セレクト(MSB)はすべて121

图1



いろいろな機能

本機は、PIANO PLAYボタンとSOUNDボタンを同時に押しながら指定の鍵盤を押すと、
ソングの演奏を聴いたり各種機能の設定をしたりすることができます。MIDIチャンネル、
プログラム・チェンジなどについては次項「MIDI」をご覧ください。

 PIANO PLAYボタンとSOUNDボタンを同時に押しているときは、演奏しないでください。予期せぬ設定になることがあります。

各鍵盤に割り当てられている機能は、8ページの「鍵盤の各機能一覧」をご覧ください。

機能確認音について

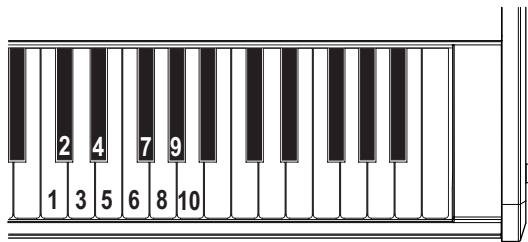
各種設定の鍵盤を押したときには、確認音が出ます。PIANO PLAYボタンとSOUNDボタンを同時に押しながら、A⁺を押すとオフに、B0を押すとオンになります。

電源を入れたとき(初期設定)は確認音が出る設定になります。

ソングを聴く

本機には10種類の音色を使ったソングが10曲入っています。ソングを聴いて、豊かな音色とその表現力を確認してください。

PIANO PLAYボタンとSOUNDボタンを同時に押しながら、本体右側のC6からA6のいずれかの鍵盤を押してください。押した鍵盤によって下記のソングの演奏が始まります。演奏は選んだソングから順番にくり返し演奏します。



演奏を止めるときはPIANO PLAYボタンとSOUNDボタンを同時に押してください。

note ソングの演奏中も、SOUNDボタンやPIANO PLAYボタンで、音色を切り替えて鍵盤を弾くことができます。このときの音色のエフェクトはソングの設定になります。

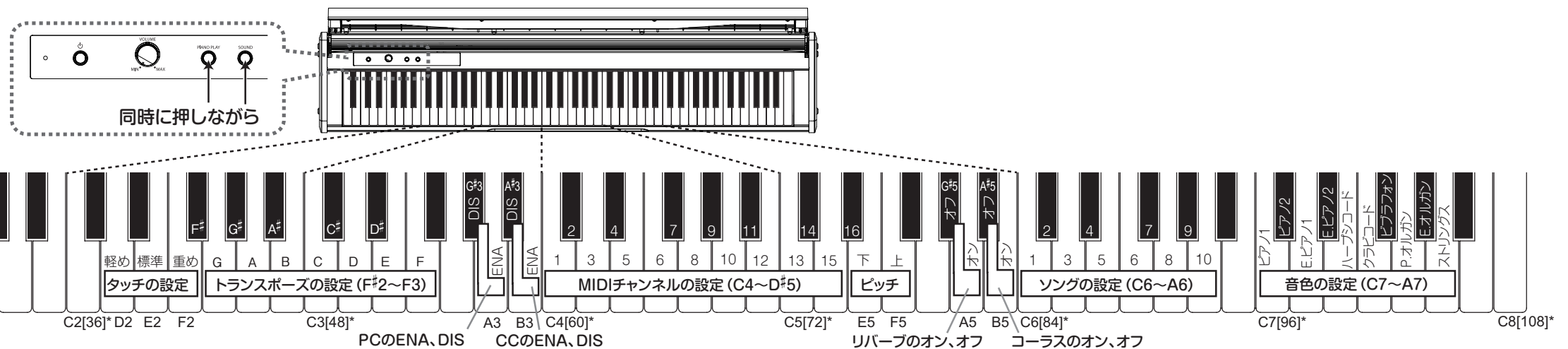
note ソングの演奏中に音色を切り替えても、対応したMIDI情報（プログラム・チェンジなど）は出力されません。

ソング名

1(ピアノ1)：	ため息/F.リスト
2(ピアノ2)：	アメイジング・グレイス/讃美歌(編曲N.Nishi)
3(E.ピアノ1)：	Ramble/M.Sakaguchi
4(E.ピアノ2)：	コルグ・オリジナル
5(ハーブシコード)：	インヴェンション第8番/J.S.バッハ
6(クラビコード)：	コルグ・オリジナル
7(ビブラフォン)：	コルグ・オリジナル
8(P.オルガン)：	トッカータ 二短調/J.S.バッハ
9(E.オルガン)：	コルグ・オリジナル
10(ストリングス)：	First Snow/M.Sakaguchi

鍵盤の各機能一覧

[]*はMIDIノートNo.です。



エフェクト(リバーブとコーラス)

音色に残響と深みを加えるリバーブ・エフェクトや、音色に広がりを加えるコーラス・エフェクトを使用することができます。

- リバース・エフェクトは、PIANO PLAYボタンとSOUNDボタンを同時に押しながら、A5を押すとオンに、G[#]5を押すとオフになります。
- コーラス・エフェクトは、PIANO PLAYボタンとSOUNDボタンを同時に押しながら、B5を押すとオンに、A[#]5を押すとオフになります。

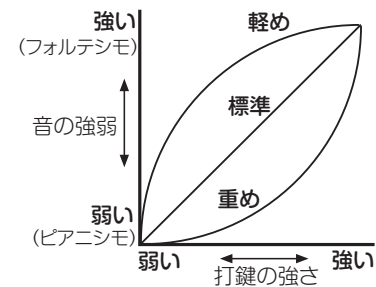
エフェクトは各音色に設定できます。

電源を入れたとき (初期設定) は、各音色での最適な設定になります。

鍵盤タッチ・コントロール機能

D2からF2の鍵盤（白鍵）で、弾いたときの強弱と音の鳴りかたを設定します。

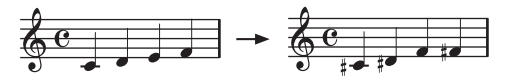
- 鍵盤を弱く弾いてもフォルテシモになるようにしたいときは、PIANO PLAYボタンとSOUNDボタンを同時に押しながら、D2(軽め)を押します。
- 鍵盤を強く弾いたときにフォルテシモになるようにしたいときは、PIANO PLAYボタンとSOUNDボタンを同時に押しながら、F2(重め)を押します。
- PIANO PLAYボタンとSOUNDボタンを同時に押しながら、E2(標準)を押すと、弾いた強さに合わせて通常のピアノのような音の鳴りかたになります。



電源を入れたとき(初期設定)は標準です。

トランスポーズ機能(移調)

黒鍵を多く押さえるような弾きにくい曲や、他の楽器や歌に演奏とキー（調）が合わせられないときなどがあります。このときキーを変える（移調する）ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで、他の楽器や歌に演奏を合わせることができます。これをトランスポーズ機能といいます。11半音の範囲ですることができます。たとえば1半音上げた場合、下図の左の楽譜を弾くと、右の楽譜のように鳴ります。



- PIANO PLAYボタンとSOUNDボタンを同時に押しながら、F2からB3、C#3からF3のいずれかの鍵盤を押すと、キーに合わせてトランスポートします。

弾いた鍵盤より低い音、たとえば、C3の位置でA2(−3半音)の高さの音を出すには、PIANO PLAYボタンとSOUNDボタンを同時に押しながらA2を押します。

弾いた鍵盤より高い音、たとえば、C3の位置でD[#]3(+3半音)の高さの音を出すには、PIANO PLAYボタンとSOUNDボタンを同時に押しながらD[#]3を押します。

PIANO PLAYボタンとSOUNDボタンを同時に押しながら、C3を押すとトランスポーズなし(±0)の設定になります。

電源を入れたとき(初期設定)はトランスポーズなしです。

ピッチ・コントロール機能(チューニング)

ピッチ (音の高さ) の微調整を行いません。他の楽器と合奏をするときに、楽器間の微妙なピッチのずれを調整します。
E5、F5の鍵盤でピッチを427.5から452.5Hz (ヘルツ) で0.5Hzごとに設定します。

- PIANO PLAYボタンとSOUNDボタンを同時に押しながら、E5を押すたびに0.5Hzピッチが下がり、F5を押すたびに0.5Hzピッチが上がります。
- PIANO PLAYボタンとSOUNDボタンを同時に押しながら、E5とF5を同時に押すと440Hzに戻ります。

電源を入れたとき(初期設定)は440Hz(A4)です。